

島根大学 研究・学術情報機構  
総合博物館 年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成 29・30・31（令和元）年度



2020.8

島根大学 研究・学術情報機構 総合博物館

Shimane University Museum

(表紙) ニホンアシカ剥製標本

採集地：島根県美保関

採集年月：1886（明治19）年2月27日

かつては日本海南西海域を中心に多数生息していたが、1970年代以降、捕獲・目撃の記録がなく、絶滅したものと考えられている。ニホンアシカの剥製標本は、全世界に約20体しかなく、本標本は、国内にある所蔵品のうち、最古のものである。

## 序 文

平成 30 年 6 月、当館では、それまで松江キャンパス内の島根大学ミュージアム本館展示室、島根大学山陰地域資料展示室、および島根大学古代出雲文化資料調査室に分散展示・保管されていた資料を集約し、これらを一元的、総合的に展示する場所を開設することができました。また、これを機に島根大学ミュージアムから島根大学総合博物館に改称しました。

開館セレモニーでは、服部泰直学長および秋重幸邦研究学術情報機構長をはじめ、学内外関係者・学生にもご臨席いただきました。新聞・テレビでも大きく報道された結果、学内外から多くの皆様にご来館いただき、おかげ様で平成 30 年 11 月には 1 万人目のお客様をお迎えすることができました。さらに、親しみやすい博物館を目指すために、平成 31 年 4 月には総合博物館の愛称・マスコットキャラクターを「アシカル」に決定させていただきました。

また、総合博物館では、常設展示・企画展示だけでなく、所蔵資料の整理作業、学芸員資格を取得するための学芸員養成課程の授業開講、市民講座や子どもミュージアム体験教室などの普及啓発事業、松江・出雲両キャンパスにおける埋蔵文化財の調査研究など、様々な活動を推進しています。

総合博物館の開館 3 年目となる今年度は、長期的展望にたった大学博物館としての真価が問われる年と位置付けておりました。しかしながら、昨年度末以来の新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、当館の様々な活動も自粛を余儀なくされているところです。まずは、資料の整理・登録や調査研究といった博物館としての基礎的活動を確実に進め、可能な範囲で展示活動・普及啓発活動なども再開していきたいと考えています。

最後に、当館の様々な取組に、御理解と御支援をこれからもなお一層賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

令和 2 年 8 月

島根大学研究・学術情報機構総合博物館館長 入月俊明

# 目次

I	規則・組織	1
1	規則・要項・申合せ	1
(1)	島根大学研究・学術情報機構規則	1
(2)	島根大学研究・学術情報機構管理委員会規則	2
(3)	島根大学研究・学術情報機構総合博物館規則	3
(4)	島根大学研究・学術情報機構総合博物館埋蔵文化財専門委員会要項	5
(5)	島根大学研究・学術情報機構総合博物館旧奥谷宿舍活用専門委員会要項	6
(6)	島根大学研究・学術情報機構総合博物館普及啓発専門委員会要項	7
(7)	島根大学旧奥谷宿舍使用要項	7
(8)	総合博物館に設置する防犯カメラの管理及び運用に関する申合せ	8
(9)	島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準	9
2	組織	12
(1)	組織構成と構成員	12
(2)	運営会議	12
(3)	専門委員会	13
II	活動報告	14
1	主な活動日誌抄	14
2	新総合博物館の開館	18
(1)	ミュージアム移転作業と総合博物館の開館	18
(2)	総合博物館の愛称・マスコットキャラクター「アシカル」	19
3	標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究	21
(1)	標本資料類などの収集	21
(2)	標本資料類などの整理・保管	21
4	博物館学および標本資料類などに係る学生教育	22
(1)	学芸員養成課程科目	22
(2)	教養科目「島大ミュージアム学」「地域博物館へのいざない」	23
5	標本資料類などに係る普及啓発及び地域貢献	24
(1)	入館者数	24
(2)	常設展示	25
(3)	企画展示など	26
(4)	団体見学・キャンパスツアーなど	29
(5)	市民講座・フィールド体験ツアーなど	30
(6)	インターネットを活用した情報発信	37
6	本学構内の埋蔵文化財の取扱い	38
(1)	構内座標	38

(2) 島根大学構内遺跡第 22 次発掘調査 (諸田地区 5).....	38
(3) 島根大学構内遺跡第 15 ~ 22 次発掘調査、寿昌寺西遺跡第 1 次発掘調査の整理・研究.....	43
(4) 『寿昌寺西遺跡第 1 次調査』島根大学埋蔵文化財調査研究報告第 10 冊の刊行.....	43
7 島根大学旧奥谷宿舎 (総合博物館分館) の活用.....	44
8 マスコミ報道状況.....	45
9 総合博物館専任教員の活動記録.....	47
III 論考.....	50
1 後期旧石器時代から弥生時代における宍道湖・中海周辺地域の遺跡分布と変遷.....	50
(1) はじめに.....	50
(2) 各時期の古地形と遺跡分布.....	50
(3) まとめ.....	57

## 図 目 次

図 1 組織図.....	12
図 2 島根大学総合博物館配置図 (生物資源科学部 3 号館 1 階網かけ部分).....	18
図 3 島根大学総合博物館展示室配置図.....	18
図 4 第 22 次調査区位置図 (その 1、1/4,000).....	39
図 5 第 22 次調査区位置図 (その 2、1/2,000).....	40
図 6 南区南壁断面図 (1/100).....	41
図 7 北区東壁断面図 (1/100).....	41
図 8 遺跡分布図 (後期旧石器・縄文早期・前期).....	51
図 9 遺跡分布図 (縄文中期・後期・晩期).....	54
図 10 遺跡分布図 (弥生前期・中期・後期~終末期).....	56

## 表 目 次

表 1 受入資料一覧.....	21
表 2 学芸員資格取得に必要な科目 (平成 31 年度).....	22
表 3 学芸員関係科目の受講者数.....	22
表 4 入館者数一覧 (平成 29 年度まで).....	24
表 5 入館者数一覧 (平成 30・31 年度).....	25
表 6 基本層位など (南区、図 6).....	40
表 7 基本層位など (北区、図 7).....	42
表 8 <sup>14</sup> C 年代測定値.....	42
表 9 宍道湖・中海周辺地域の縄文遺跡から出土した動物遺存体 (各文献をもとに作成).....	53

---

---

島根大学研究・学術情報機構総合博物館年報

平成 29・30・31（令和元）年度

発 行 2020 年 8 月 31 日

発行者 島根大学研究・学術情報機構総合博物館

〒 690-8504 松江市西川津町 1060

電話 (0852) 32-6496

印 刷 株式会社谷口印刷

---

---